



43号の主な内容

- ハートフルフェスタ、地球市民どんたく
- 世界ハビタットデー
- ハビタットひろば
- 九州・アジアメディア会議
- ケニア・ムザンツィ学校支援
- 今後のスケジュール、■お知らせとお願い

第 **43** 号

<http://cnhf.web.fc2.com>

■ハートフルフェスタ

2014年10月5日(日)福岡市役所西のふれあい広場で、ハートフルフェスタが開催され、ハビタット福岡市民の会も日本ハビタット協会と共同でブース出展しました。

今年は、毎週のようにやってくる台風による雨が心配されましたが、最後に小雨が少しばらついたものの、何とか最後までもってくれてよかったです。

11時より開会の挨拶が始まり、東福岡高校の吹奏楽・市民オーケストラの演奏をはじめ、復興支援劇「3.11を忘れないで」等、もりだくさんのステージプログラムもあり、たくさんの人々が足を運んでくれました。



ハビタット福岡市民の会では恒例のコイン仕分けワークショップを通じてハビタットの活動を少しでも市民の皆様知ってもらうことを目的に活動を行いました。



ハビタットとは何か、福岡に唯一の国連機関である国連ハビタット福岡本部があることを周知しながら、どうしたらもっと興味をもってくれるか、どういう支援のかたちがあるかなどを考えるいい機会になりました。



日本に住む私たちには当たり前の水道設備・住居・電気・ガスがまだないところが世界中にはたくさんあり、そんな人たちの為に少しでも役に立つにはどうしたらいいかもみんなで考えました。昨年訪問したケニアのナイロビにある国連事務所、そして第二の都市キスム郊外のムザンツィ学校では、予算不足から、手洗いもないたった2つのトイレを800人で使用している日本では考えられない現状などを説明する写真を展示。少しでも人々が暮らしやすい生活環境を実現するためのお手伝いを日本ハビタット協会と協力しながら進めています。

日本では物は作って壊れたら捨てる、また新しく買うのが一般的だがヨーロッパはリサイクルが当たり前。このまま先進国が利便性を追求しすぎて 自然環境を壊していることも大きな問題だと思う。近年の大雨や台風・竜巻の発生は自然界からの警告のように私は思います。この地球を後世の子供たちに残すにはある程度の不便もあっていいのではと思います。

24時間営業のスーパー・コンビニ・自動販売機・スーパーやコンビニがなくなれば、家族団らんの時間も増えるのでは?とも思います。

3.11も決して忘れてはいけません。私はそのとき仕事していて福島が大変なことになっていたことをサービスマンがチェックのためにつけた修理品のTVで知りました。次の日からは、仙台の工場が流されたのでいろんなものを福岡から送りました。

便利さだけを追求した結果の放射能災害。廃炉に難問を持つ原子力建屋・流れる汚水。使用済み核燃料の保存場所等何一つとして解決されないのにもう再稼働、私は疑問視するばかりです。後世の子供たちの考えると安易過ぎると思います。

よりよい地球を残すのが私たちの使命だと思うし、武器を持って戦うのではなく皆で支えあう世界が築けたらいいなと考えます。
(大坪優美子)



■地球市民どんたく

2014年11月15日、16日両日に、アクロス福岡2F 交流ギャラリーで、地球市民どんたくが行われました。

地球市民どんたくとは、国際協力・交流を行う団体が一堂に会し、活動紹介をするイベントです。



ハビタット福岡市民の会と日本ハビタット協会はそれぞれにブースを出し、ハビタットの活動紹介をするとともにコイン仕分けのワークショップも共同で行いました。



国際平和、国際協力に、関心、興味が有る人々の集いでした。自分は、今回、地球市民どんたくに参加して、国際的に、明るく、楽しく、争いがない、平和な世界づくりについて良い発信が出来たのではないかと思います。これからも、ハビタット福岡市民の会のメンバーと共に、経験を積み、世界平和、国際協力への道を、前進して行こうと思います。
(中川雅文)



九州・アジアメディア会議

2014年12月4日、共創館みらいホールにて、「都市づくりにジャーナリストの視点を」というテーマで、国連ハビタット福岡本部などが主催して、第2回九州・アジアメディア会議が行われました。



高島市長、国連ハビタット福岡本部深澤本部長、九州経済連合会麻生泰会長のご挨拶のあと、中国、韓国、ベトナム、タイ、フィリピン、インドネシアおよび日本のジャーナリスト8名の皆さんにより、第1部「観光交流と都市力強化」第2部「都市における芸術・文化の役割」というテーマで、それぞれ基調講演とパネルディスカッションが行われ、活発な意見が交わされました。
(牟田慎一郎)

世界ハビタットデー

2014年10月7日(火) 18:00~20:30 アクロス福岡7階大会議室にて、国連ハビタット福岡本部主催の福岡国際ワークショップ「弱者の声が届くまちづくり」が行われました。ファシリテーターとして福岡女子大学准



教授 和栗百恵氏がユーモア溢れる進行をされました。「弱者」とは誰を指しているのか？それだけでは印象の良くない言葉ですが、ワークショップの中で、ここでいう「弱者」とは、the Voiceless: 生活の上で不都合を感じているが、その不都合が周りや一般に気付かれていない方たち、例えば、妊婦さん、障がいを持つ方、怪我をした方、過疎地域に住む方、

社会との結びつきをなくした方等を広く指していて、自分自身も「弱者」に成り得るのだと理解しました。



九州大学大学院博士課程で地元・コミュニティについて研究している福井高郎氏、国連ハビタット福岡本部プロジェクト・アシスタントで妊娠中のヒラリー・テイラー氏、NPO法人Forza社会福祉士で障がい者支援をされている大川綿代氏、福岡地域戦略推進協議会(FDC)ディレクターの石丸修平氏、(株)斎藤政雄建築事務所代表取締役・まちカンパニーはこざき共同主宰で箱崎を中心に地域活性化に従事されている斉藤昌平氏、5名のゲスト・スピーカーにスピーチを頂きました。

それぞれの立場や、行われている活動の観点から、「弱者=the Voiceless」の実態と、そういった方を含め、全ての方々にとって、よりよい社会となる為の活動などをご紹介頂きました。ゲストスピーチの後は、ゲスト・スピーカーと私たち参加者が一緒にグループに分かれ「弱者」とは誰か、より良い社会にするために自分たちができることは何か、意見交換。私はヒラリー・テイラーさんと同じグループで、妊婦さんの感じている生きにくさについて詳しく聞きました。また、同じグループで身障者の方の支援活動をされている方から、身障者の生きにくさについてもお話を伺いました。妊婦さん、来日外国人の方、障がいを持つ方、地域の方、私の周りにもそういう方はいらっしゃいますが、彼らの社会での生きにくさについては、今まであまり意識してこなかったと気付きました。このワークショップ以来、電車では同乗者の鞆にマタニティマークがついていないか、お年寄りがないかなど、以前より意識するようになっています。また、時間の合う限り地域の行事に参加し、同年代以外の人とも交流しようと思います。福岡が広く多様性を受け入れる社会になるよう、身近なところから改善していきたいです。
(江藤美紗)



■ハビタットひろば

国連ハビタット福岡本部が(公財)福岡県国際交流センターとの合同でアクロス福岡3Fのこくさいひろばで偶数月の1日に開催している合同レクチャーシリーズ「ハビタットひろば」の報告です。

■フィリピン大型台風被災を乗り越えて

2014年10月1日(水)18:30~19:30にハビタットひろばが開催されました。国連ハビタット福岡本部の人間居住専門官、ベルナード・バートゥさんがフィリピンの大型台風被災地での国連ハビタットの活動について講演をしました。



2013年11月8日にフィリピンを襲った大型台風ヨランダによって、現地は深刻な被害を受けました。1400万人が被災、110万戸の住宅が全半壊しました。60カ国以上が援助をしています。国連ハビタットも活動の中で、250万米ドルを提供した日本国政府支援事業である「住宅再建を通じた生活再建事業」をロハス市で2014年4月より2015年3月まで促進しています。

ロハス市での住宅再建支援では、①災害弱者グループを対象に610戸の住宅再建・復旧支援をします。また、②弱者グループ4000世帯を対象に再建への技術的アドバイスを行います。③20コミュニティに対して公民館を作る、排水溝、道路整備等のインフラ整備も行います。④250人の職工、大工を訓練指導することも行いました。⑤事業を通じて雇用を創出し、被災コミュニティの生活再建に寄与します。その時に、フィリピン政府に「住民主体(Peoples' process)」のアプローチを用いた政策の支援を行います。「住民主体」の政策を用いると、①30%コスト削減ができる、②住民に雇用と収入を与えることが出来る、③地元の経済が活性化する、③建設作業の期間短縮が出来る、④スキル改善になる、⑤創造性と工夫ができ、プライドを持てる、⑤コミュニティの透明性と信頼性が確保できるメリットがあります。現在、323世帯を住宅支援対象者として決定しました。内、9コミュニティ・132世帯に関しては、コミュニティ契約の手続きも完了し、再建・復旧過程に入っています。以上、国連ハビタットでは、②災害復旧過程を通じて、災害に強く、持続可能な街づくり、地域づくりを目指しています。

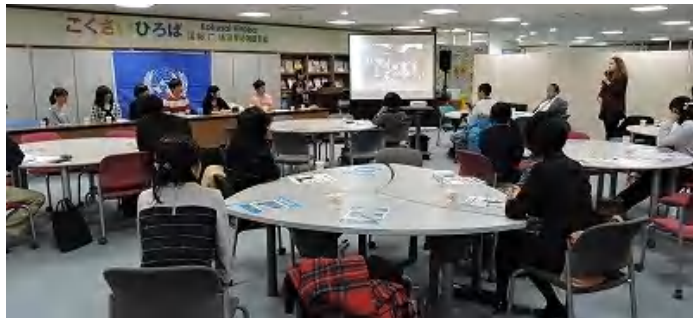
今回の講演は、熱意のこもった講演であり、国連ハビタットの活動状況が詳しく語られよく分かりました。大変有意義な講演会でした。(佐竹芳郎)



■大学生がスリランカで見た国際協力活動

12月に入り、急に寒さが厳しくなった12月1日(月曜日)、今年最後のハビタットひろばが開催されました。

今回は、福岡県が開催する「国際リーダー育成プログラム」に国連ハビタットが協力し、今年9月に福岡県の大学生10名をスリランカ事業訪問に受け入れた際の内容報告会でした。



発表では、実際にプログラムに参加した大学生が、スリランカの現地で体験したことや学んだこと、現地の住民や国際機関との交流で感じたことなどをひとりずつ順番に発表しました。

若々しく元気で堂々としており、またエネルギーで愉快な中にも、非常に真剣で真摯な内容の報告会でした。本人達は気付いていないかも知れませんが、大学生とは思えないほどの逞しささえ感じられました。

スリランカは津波の被災地であるだけでなく、数年前まで長年に渡り繰り広げられてきた民族紛争の内戦の傷跡がまだ残っている国です。10名の大学生が体験してきたことは、日本ではまず知りえることのない未知の世界との遭遇であったことと思います。



このプログラムは、昨年に引き続き今年が2回目となりますが、大学生に実際の国連ハビタットが行っている活動を体験してもらったり、現地の国際機関を訪問したり、住民と交流したりするなど、内容がとても素晴らしく、参加できる大学生は大変幸運だと思います。今回参加した10名の大学生が経験して得たものは、一生残るものであり、これからの人生においても何らかの形で生かされていく事は間違いないでしょう。ぜひ、今後もこういった企画を福岡県や国連ハビタットで継続していただき、その中から未来を担う国際的な人材がたくさん誕生することを願っています。(野田修司)



■ケニアムザツィ学校支援

昨年 9 月にハビタット福岡市民の会のスタディツアーで訪問した、ケニアのムンザツィ学校への衛生プロジェクト支援がスタートし、日本ハビタット協会より 2014 年度と 2015 年度の支援金が送金されました。

2018 年までの 5 年間で 3 万ドルの支援を行い、浄化槽つきトイレやシャワー室などの建設を行います。

先方より、着工後の進捗を表す写真来ました。



工事には、学校の生徒たちも積極的に協力をしているようです。

市民の会ではいろいろな形で募金活動していきたいと思っています。皆様のご協力をよろしくお願い致します。4 年後には、再びケニアを訪問し、完成を見届けたいものです。(牟田慎一郎)



編集後記

42 号よりネット印刷によるオフセット印刷を採用し、安価できれいな仕上がりが好評でした。今後も、このオフセット印刷での作成を続けていきたいと思っています。

あっという間に一年が過ぎ新しい年を迎えようとしています。2015 年度は、新体制でスタートすることになります。また、ケニア学校支援をいろいろな形で推進していく年でもあります。若い力による、新しい発想で、新しい活動が生まれることを期待したいものです。それでは良いお年をお迎えください。(M)

■2015年度のスケジュール

- 1月21日(水) 定例会
- 2月1日(日) ハビタットひろば
- 2月18日(水) 定例会
- 3月18日(水) 定例会
- 4月1日(水) ハビタットひろば
- 4月15日(水) ニュースレター44号発行
- 5月20日(水) 定例会
- 5月23日(土) 24日(日) AFRIKUOKA 出展
- 6月1日(月) ハビタットひろば
- 6月17日(水) 定例会
- 7月15日(水) 定例会
- 8月1日(土) ハビタットひろば
- 8月19日(水) ニュースレター45号発行
- 9月16日(水) 定例会
- 10月1日(木) ハビタットひろば
- 10月 ハビタットイベント
- 10月 ハートフルフェスタ出展
- 10月21日(水) 定例会
- 11月 地球市民どんたく出展
- 11月18日(水) 定例会
- 12月1日(火) ハビタットひろば
- 12月16日(水) ニュースレター46号発行

☆日程は、変更になることがあります。

直前に、Facebook やメールでお知らせします。

☆定例会の会場は、原則として福岡市 NPO ボランティア交流センター「あすみん」(右図)で行います。定例会後、希望者による食事会も行っています。参加お待ちしております。



■お知らせとお願い

■役員体制の変更について

一身上の都合による野田事務局長の退任により新体制を下記のように変更することになりました。

- ・事務局長(新任) 前田直樹
- ・事務局次長(新任) 江藤美紗

なお、代表、副代表、会計、監事などは、留任です。

■2015年度年会費納入のお願い

2015 年度の年会費の納入をお願いします。

一般 2000 円 学生 1000 円

同封の振替用紙をお使いいただければ手数料不要です。郵便振替口座：

ハビタット福岡市民の会 01730-0-78434

■ケニア・ムンザツィ学校支援ご協力をお願い

ご協力いただける方は、振替用紙に「ケニア学校支援」と記入し、上記郵便振替口座に送金をお願いします。

事務局・お問い合わせは

郵便物のあて先は：

〒838-0134 小郡市下西糺坂 1493 牟田慎一郎宛

お問い合わせは：

TEL：090-6770-2481(牟田)

FAX：0942-41-2080

E-mail：muta@ktarn.or.jp

Facebook：ハビタット福岡市民の会

HomePage：http://cnhf.web.fc2.com

